

ふじかわ まつなみき
藤川の松並木

<概要>

「藤川の松並木」は慶長9(1604)年から幕府の事業として東海道が整備される過程で植えられた。道の両側に築かれた土塁に植えられた松は、成長が早く、厳しい環境でも生育することが可能なため、夏の日差しを防ぎ、冬は防風林として東海道を行く旅人に街道の松並木として安らぎを与えていた。こうした歴史的経緯を踏まえ、「藤川の松並木」は、昭和38(1963)年5月8日に岡崎市指定天然記念物に指定された。また、平成8(1996)年には、東海道藤川宿が建設省(現国土交通省)の歴史国道に選定され、東海道の保存、歴史や文化の意義の再確認、良好な居住空間の創造を目指して「道」を軸とした整備・活動に取り組んできた。

本松並木はその景観を維持し、旧東海道にあたる県道市場福岡線及び市道藤川北荒古6号線の約1km にわたって生育している。その生育数は、現在胸高直径 30cm 以上の松が107本ある。その松は、県道及び市道にわたって生育しているため、これまで愛知県と岡崎市がそれぞれの道路区域内に所在する松を管理してきた。また、病気や災害といった原因で並木内の松が消失した際には、地元住民などを中心として補植作業が実施されてきた。平成26(2014)年度からは、補植活動が藤川小学校の卒業記念行事の一つに位置付けられるなど、「藤川の松並木」は、郷土愛を育む地元のシンボルとして大切に守られてきた。さらに、土手の草刈や清掃については、地元の障がい者支援施設藤花荘の「藤花荘 CGC 協会」が定期的に行っている。

以上の理由から、この松並木を県の天然記念物に指定し、より一層の保護を図ろうとするものである。



藤川の松並木

(写真は岡崎市教育委員会提供)